

防災の取組について

1 命を守る訓練（年3回）

第1回（4月）火災を想定 火災報知器が鳴ったのを聞き、グラウンドに避難

第2回（9月）地震を想定 緊急地震速報の後、体育館に避難（雨天のため）

※避難途中に怪我人と、ガラス破損のため通行不能箇所の発生を想定した。

第3回（2月）冬季の非常時を想定して実施する予定



2 シェイクアウト訓練（命を守る訓練のない月に実施）

緊急地震速報を聞き、「ダンゴムシのポーズ」を取って机の下に入り、自らの命を守る訓練を実施した。（児童生徒への事前の予告なし）繰り返し訓練することで、低学年の児童も身を守る姿勢をスムーズにとれるようになっている。



3 引き渡し訓練（4月）

災害時に児童生徒を確実に保護者に引き渡すための訓練を行った。

実施方法

1. P T A総会終了後、保護者に敷地外に出てもらう。（公営駐車場待機）
2. 「すぐー」で引き渡しの依頼を配信する。
3. 学校に戻ってきた保護者に児童生徒を引き渡す。
4. 保護者から帰宅確認の連絡を入れてもらう。

4 非常食の確認

教室に各自の非常食を3日分常備しており、学期ごとに保存期限の確認をしている。
(試食することもある)

5 授業における防災教育（主に生活単元学習）

小学部 ・NHK for school を利用して、動画を視聴
「避難所について」「地震に備えよう」

中学部 ・体験学習（防災の日）

災害が起こった後の避難所での暮らしを想定し、簡易トイレやベッド、簡易スリッパを作ったり、発電機を実際に回して扇風機を動かしてみたりなど、体験的な学習を行った。

・消防署見学

職業調べの一環として消防署の見学を行った。インタビューや、実際に消防服を着ての放水訓練など、体験的な学習を行った。



高等部 ・ハザードマップで自分の住んでいる地域の避難所を確認した。

・地震、洪水が起きた後の行動について考えた。（調べ学習）

・非常食について学ぶ（慣れる）

非常食の種類

非常時に混乱しないように試食

保存期限を確認



6 P T A 防災委員会の取組

・防災委員会のメンバーが、校内に保管している防災備蓄用品の確認を行った。

（使用方法、期限、管理状態の確認）

・保護者に防災面で心配なことについて事前にアンケートを取り、委員が消防署や市の危機管理課を訪問して質問した。その結果をまとめたものを冊子にして、各家庭に配付予定である。

※保護者からの意見

・避難所で落ち着いて過ごせるか心配である。

・災害時にすぐに学校に迎えに行けない時、どうしたらよいか。

・備蓄品は市から配られるのか



◎1/31に飛騨市危機管理課の方をお願いしP T A防災研修会を実施した。